

平成 28 年度第 2 回教育課程編成委員会資料

本校の教育についての全体の感想

- ・「実践力」を身につけさせるという教育目標の下で、プレ実習を位置付ける点に新しい企画を感じる。
- ・大学と職業大学の 2 極化の中で、職業実践専門課程を開設することが必然となってきた。この課程が通ったならば、ここでの特長を大いに PR すべきである。
- ・夜間部は長年続いており、社会的には評価している人もいると感じる（社会的貢献をしている）。
- ・専門学校としての水準を高めようと、演習、実習に力点を置こうとしていることはとても大切である。「アクティブラーニング」として近年重視されているが、「知識」と「技能」が伴って育つことはとても大切なことである。そのことを重視するために、隣接している滝子幼稚園、幼児園の園長が教育過程づくりに参画し、連携を強めていることも、理念だけが進むのではなく、実際の学びに生かされていくという点でとても素晴らしい。
- ・必修科目として実習以外にプレ実習を加えたのは、2 つ目の実務を実際の学びとして具現化しており、素晴らしいことである。本校に行きたいという学生は、本当に子どもが好きなのだと思う。その初心を生かすものとして、学生募集対策にも効果があると思う。
- ・プレ実習のレポートを見て、まだ入学して半年ほどにもかかわらず、大半の学生の視点が、保育者の子どもへの対応や、子ども同士が助け合う姿、子どもの発達段階に向けられていることに感心する。
- ・実践の現場がある（幼児園・幼稚園）ことは、とても大きなアピールポイントであり、今後も 1 つの柱として強く広まるように伝え続けるべきだと思う。
- ・教育の質、環境という面からはすばらしいと言えるが、学校そのもののインパクトに欠けるところが感じられる。
- ・就職率の良さをアピールすることで、よい学生も集まると思う。
- ・自由学院の教育目標である「至誠奉仕」の精神に基づき、充実したカリキュラムが実施されていると感じる。しかし、実践力や人間力を高めるという意味では、まだ足りない部分や補わなければならない部分があると感じる。保育所・幼稚園と協働して実践的な力を上げていって欲しい。そのためには、職業実践専門課程の指定に向けて対応して欲しい。

改善に向けての提案

- ・大学との連携がかなり必要と思われる。研究紀要について専門学校独自のものを作成することと併せて、大学の研究紀要にも所収してもらえようようにしていく（今後、教員の業績や学歴が厳しく求められてくる）。
- ・同窓会を上手く活用できないか。60年の伝統がある学校であり、卒業生との連携を増やすことで、新設の専門学校にはできないアピールができる。
- ・大学の教員が専門学校講義を担当する必要もあるだろう。担当コマ数の問題もあるが、応援は全学体制で考えて行くべき。
- ・教職実践演習へ園の管理職が参加することは、園とのつながりや学生の保育士・幼稚園教諭への志向を強める上で重要である。
- ・交通アクセスは決して悪くない。金山総合駅や、各地下鉄駅から通学しやすいことを活かしたい。
- ・学生の実習体験での充実感、満足感を大切にしたい。こうした学生の意識を学内に広める努力をこれまでもやってきたと思うが、継続して行って欲しい。
- ・プレ実習も含めて、一斉指導・個別指導ともに、丁寧な実習前後の指導が大切である。昨年、大学ではプレ実習的活動をゼミ単位で試みたが、ゼミによっては服装、参加態度が良くなかった。
- ・アクティブラーニングについては、各授業の内容を細かく見ている訳ではないが、「講義」と「演習」の違いを踏まえて、少なくとも「演習」は大いにアクティブに学べるようにしていくことが大切と思う。
- ・平成30年度には教育・保育の要領や指針が改定される予定である。これからは、指示・命令型の一方通行の教育でなく自分で決めて（選んで）行動し、結果について責任を持つという人格が要求される。乳幼時期のその基礎作りの援助者たるには相当の意識改革を要する。授業が長年の積み重ねでマニュアル化されていたり、過去の内容を踏襲することを良しとする傾向があるのであれば、これから活躍する人材を養成する機関として遅れをとることは明白である。授業内容について知恵を出し合って全体の水準を上げていくことが喫緊の課題かと思う。
- ・資格・免許が取得できること、学費が低く抑えてあること等、良い点が十分あるにもかかわらず、知名度が低いことは残念である。
- ・東海3県で受験できる場所や、入試回数を増やす等、多くの人が受験できる循環を作っていけると良い。
- ・現在の保育士不足は深刻な社会問題となってきている。保育所や幼稚園で働きながら資格・免許が取れる環境を整えれば、第二部の学生は集まりやすくなる。少しでも多くの学生を受け入れて、支援しながら育てていくことも必要だと感じる。